

磐城時報

日刊 廿七 日刊
編輯兼發行所 田田弘成
印刷所 磐城時報社
印刷部 磐城時報社
電話 二五五
郵政掛號 第三三三三號
廣告料 一行四角 一月十元 三月三十元 半年六十元 一年一百元
（日曜、祭日）休刊

昭和四年度豫算に

四萬五千圓増加

平町昭和四年度豫算は四十五萬三千三百二十二圓であつたが、道路改修費三千七百四十一圓、下水道費一萬二千八百三十三圓、土木繼續費四年度支出額一萬三千二百三十三圓、第三小學校校舎建築費四年度支出額一萬五千五百七十五圓等の追加の必要を生じたので四萬五千四百九十九圓を追加する事となり、二十七七日町會で承認された。この追加額は縣補助九千五百十圓、寄附金八千七百六十四圓、土地賣却代一萬一千八百九十三圓、繰越金一萬五千六百九十二圓を以て充當する事になつた。

第三小學校建築費

支出額變更

平町第三小學校建築費は左の如く支出する事に變更した。
▲二四三三〇圓 三年度支出
▲六七二六七圓 四年度支出

平町會

提案事項

平町會は二十七日午前十時から招集左の件を協議した。
一、昭和三年度事業繰延の件
二、同年度歳入出豫算更正の件
三、同年度特別會計事業繰延の件

民政黨の

政談演説會

民政黨石城郡會では四月中旬本部から齋藤隆夫、松田源治兩氏を招き平町及び勿來町の二ヶ所で政談演説會を開く事になつた。

不徳漢問題で

井上野崎氏一騎打

第三小學校問題で緊張した平町會

平町會は二十七日午前十時から開會したが、第三小學校建築費の昭和三年度並に四年度の支出額變更の件協議に入るに當つて萩原義雄氏は、第三小學校敷地は買収の交渉委員十一名が、町會に於て圓滿に買収が出来ると言明したに拘らず地主の一人なる齋藤某が今以て一坪三圓の買収に應じないといふ事情であるといふが、委員は虚偽の報告をしたのか。質問したので問題が大きくなり、二三議員から意見の開陳があつた後加納五郎氏は、齋藤某の買収に應じない土地は法律によれば收容法も適用可能と答へた。井上氏の言に對し野崎氏は

全部の買収が未だ纏まらぬに拘はらず纏つたものゝ如き不徳なる報告をなしての乍ら今日になつて逃げ足を踏むとは怪しからぬ。追究すれば、井上氏は吾々委員は不徳な行爲をしたとは考へてゐない、不徳漢といふ言葉は穩當を欠くから取消された。取消しを要求したが野崎氏は「取消さぬ」と頑張り、久しぶりではしばらくの間緊張した場面を續け、論議の末結局原案通り支出額變更の件を可決した。

各區から寄附

平町第十七區長鈴木惣五郎氏は三年度土木費中に百十三圓、第十區長石山治三郎氏は三百圓、第二十一區長草野清治氏は二百三十圓七錢を、第八區長草野榮三郎氏並に三町目代表柏原幸次郎氏は二百五圓を何れも昭和三年度土木費中に寄附した。

土木工事繰延

平町胡摩澤、高月の道路改修工事並に二丁目、二丁目、銀治町、仲町、田町下水道費及び排水溝工事は昭和三年度に完成せざるため四年度に繰延べる事になつた、而して之に對する縣費補助を仰ぐ事になつた。

清酒品評會

平町清酒品評會は四月五日から三日間平町清酒品評會上に開く等出品点数二百点、審査は仙臺稅務監督局小池技師が行ふ。

平陽校の専攻科 無試験で小學教員

四月から新設

平町平陽女學校では来る四月の内郷村大字宮反保忠恵方居任反新學期から専攻科を設ける事に保定二(七二)は二十五日午後十時同校の入学資格は同校時頃同家長屋に於て溢死しての本科並に技藝科卒業生で修業年を古物商を営み相當の生活をして限一ヶ年、目下新入生三十名を卒業生は無試験で小學校教員の資格を得らるゝわけである。尙自殺したのもらしい。

湯死

江名町大字江名農務木松吉(五六)は二十四日午後六時半頃自宅前の井戸に轉落したのを家人が発見し引揚げたが溺死した。同人は期節變りになると毎年精神に異常を呈するを常とし、今年も二三日前から異常を認められてゐたから或は自殺を企てたものでないかと言はれてゐる。

平町に開く

縣下射擊會 縣獵友會主催縣下射擊大會は来る四月二十日、廿一日の二日飯野村谷川瀬の平獵友會射撃場に於て開催する事になつた。

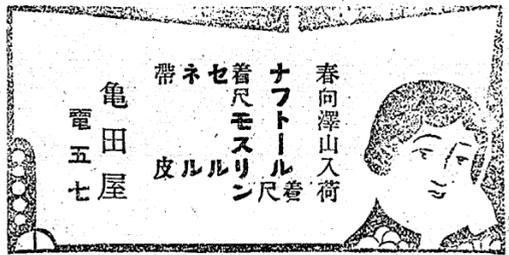
老爺縊死

東京市京橋區月島通り生れ當時紺屋町會川卯三郎氏令息二郎氏

金利低下の社會的意義

(五) 本紀 一 是即ち普通銀行制度の改善如何に關する問題であるが、この銀行が負擔する手数料の節約方法はひいては銀行經營の經濟的調節を有効ならしめ又預金利率を減少せしめるのである。資本主義の軌道は資本の集中に向つて延々と延びてゆく。銀行合同の促進、資本最低限百萬圓以上とする等所謂大藏省の金融政策とす

は四月一日高田重砲兵大隊に入營する事になつたので二十七日午後三時から天満宮社前で送別會を開き青年分團長馬目雅治、區長吉田寅之輔兩氏の祝辭あり盛會であつた。



春向澤山入荷 ナフトール着 着尺モスリン 帯ネセ 皮ルル 亀田屋 電五七

驚いた!!!

こうまで安いとは 平・加納活版所の印刷物 大銀行主義も進みつつあるこの軌道の一ステーションでこれによつて銀行の經營費を節約し預金競争を制限して金利の低下を求めんとするものであるがまた金利の低下により銀行自身の自衛策としてもなればならぬ處に金融不振に基く社會經濟的意義が存するものであると思ふ。金融制度改善案に關する項目別の記述は高橋植吉氏著「資本主義末期の研究」中に擧げられたものを例證したことを終りにこゝわつて御座す。(四・三・二〇稿)

